

## 共同研究室

昭和四十五年度第三回研究会（七月三日）

▼テーマ 銀行資本における歴史と論理

報告者 小牧聖徳氏

昭和四十五年度第四回研究会（七月十日）

▼テーマ 「帝国主義論」の方法

報告者 島津秀典氏

（報告要旨は第十九巻・第二号論説の項に掲載）

昭和四十五年度第五回研究会（七月十七日）

▼テーマ 労働組合運動の右翼的「統一」をめぐる諸問題

報告者 戸木田嘉久氏

昭和四十五年度第六回研究会（十月二日）

▼テーマ 独占段階における独自の・資本制的生産様式

報告者 坂本和一氏

（報告要旨は第十九巻・第一号論説の項に掲載）

共同研究室

昭和四十五年度第七回研究会（十月二十三日）

▼テーマ ヘーゲル・コングレスの報告

報告者 中埜 肇氏

（報告要旨は第十九巻・第四号学界動向の項に掲

載）

昭和四十五年度第八回研究会（十一月六日）

▼テーマ 最近の私学財政の問題点

報告者 坂野光俊氏

昭和四十五年度第九回研究会（十一月十三日）

▼テーマ ドイツの都市財政の現状

報告者 加藤睦夫氏

（報告要旨は本号論説の項に掲載）

昭和四十五年度第十回研究会（十二月四日）

▼テーマ ペーテイ経済理論の構造とその性格

報告者 稲村 勲氏

（報告要旨は本号研究の項に掲載）

二一三（一〇四五）

▼本年度(昭和四五年四月以降四六年三月迄)会員が本誌以外に発表した業績はつぎのごとくである。

岡崎栄松

(編著)

越村信三郎・高島善哉監修、杉原四郎・古沢友吉・岡崎栄

松編

マルクス経済学体系辞典

第三出版 昭和四五年九月

小野一郎

レーニンはマルクスの社会主義経済論をどのように発展させたか

せたか

《経済》 昭和四五年四月号

書評

「長砂実著『社会主義経済法則』」

《関西大学商学論集》 第十五卷・第三・四合併号

加藤睦夫

政府事業特別会計の役割と限界

《金融財政事情》 第二二卷・第二号

川本和良

書評

諸田実著『クルップ』

《神奈川大学商経論叢》 第六卷・第三号

坂野光俊

新全国総合開発計画と地方財政

《法と民主主義》 昭和四六年一月号

杉野園明

所有形態の転化法則について

《九州大学経済学研究》 第三五卷・第一・二号

大牟田市における公害の現状と問題点

《大牟田市開発計画基礎調査》 昭和四五年六月

戸木田嘉久

社会変革における労働組合の役割

《講座・労働組合運動の理論》 第七卷

大月書店 昭和四五年五月

労働組合の右翼的「統一」論批判

《経済》 昭和四五年六月号・八月号

戦後単産史——炭労

《日本の産業別組合》

総合労働研究所 昭和四六年二月

戦後変革と大衆闘争

《講座・日本史》 第八卷

東大出版会 昭和四六年三月

現代の「合理化」と青年・中高年労働者問題

《労働と経済》 昭和四六年三月

中埜 肇

ヘーゲル

ミネルヴァ書房 昭和四五年七月

イデアリスムスと自由

——ヘーゲル哲学の根本にあるもの——

《思想》 昭和四五年九月号

細見 英

翻訳

N・I・ラーピン「マルクス『経済学・哲学草稿』における所得の三源泉の対比的分析」

《思想》 昭和四六年三月号

三好正巳

新経済社会発展計画と労働力誘導政策

《企業法研究》 昭和四五年十月号

戦後失業問題の一視角

——戦後労働力政策と社会保障——

《鹿泉短大商経論叢》 第十九号